

Special Vision#12

introduction



母乳もミルクも飲んでほしい、
仕事復帰、パパの育児、疲労

母乳外来の窓から見えてくるママたちの今

2023年1月31日(火)

1月31日(火)20時 【Special Vision#12】
母乳もミルクも飲んでほしい、仕事復帰、パパの育児、疲労

母乳外来の窓から見てくるママたちの今



岡本千加氏
ははこ助産院



須田桃子氏
科学ジャーナリスト
News Picks 副編集長



神園七海氏
母親・もと保育士

今夜のスケジュール

1.イントロダクション

2.岡本千加さん（ははこ助産院）

3.須田桃子さん(科学ジャーナリスト、NewsPicks 副編集長)

4.神園七海さん(母親、もと保育士)

4. 会場との対話

Peatix 検索 グループ / イベントを始める マイチケット トロ

グループ イベント ホーム 参加者 公開ページ 編集 視聴 集客 その他



3月23日 【Special Vision # 3】 母乳のすすめは産後うつの原因？～母乳育児を「心」からみつめる (再・見逃し配信)

イベントは終了です (水) 23:00 (284 日間) | オンライン | By Special Vision

メディカル/ヘルスケア ママ 子育て 心理学 マタニティ ベビー

Peatix 検索 グループ / イベントを始める マイチケット トロ

グループ イベント ホーム 参加者 公開ページ 編集 視聴 集客 その他



12月22日 【Special Vision #11】 アメリカ社会は母乳育児をどう支援しているのか 2022年最新事情 ～ボストンからの報告～(録画あり)

20:30 | オンライン | By Special Vision

子育て 看護 健康 医療 ウェルビーイング

Special Visionは
「母乳をすすめてはいけない」という風潮に疑問を持ち続けてきました。



土曜日 20:00
オンライン
世界の母子保健と周産期医療の旅 【Special Vision ナイトトーク】 (見逃し配信あり)



CDC(アメリカ疾病予防管理センター)

海外に目を向けると、母乳率の少ない国も、必死に母乳率を上げようとしていました。



CDC Centers for Disease Control and Prevention
CDC 24/7: Saving Lives, Protecting People™

Breastfeeding

CDC

- Breastfeeding
 - About Breastfeeding +
 - Data & Statistics +
 - Guidelines & Recommendations +
 - Breastfeeding and Special Circumstances +
 - Resources Library +
 - State and Local Strategies
 - Priority Breastfeeding Strategy
 - Frequently Asked Questions (FAQs)

Breastfeeding

[Print](#)

NEW!

Maps of Breastfeeding Initiation by County

[View New Maps](#)

CDC's Division of Nutrition, Physical Activity, and Obesity (DNPAO) is committed to increasing breastfeeding rates throughout the United States and to promoting and supporting optimal breastfeeding practices toward the ultimate goal of improving the public's health.

[Get Email](#)

To receive email on this topic, enter your address.

Email Address

[What's this?](#)

Division of Nutrition, Physical Activity, and Obesity

Data & Statistics
National and state data on breastfeeding rates, support indicators, infant feeding practices, and maternity care practices.

Resource Library
CDC toolkits, reports, fact sheets, and more.

Obesity, Physical Activity, and

care practices: infant feeding practices, and maternity

more: CDC toolkits, reports, fact sheets, and Resource Library

米国で生まれたすべての子を対象に母乳を飲めた子の率を郡ごとにマッピングしている。支援が不足している地域が一目瞭然。

<https://www.cdc.gov/breastfeeding/data/county/breastfeeding-initiation-rates.html>



NEWS
1

胎児、新生児期からの 予防医療

9月3日、日本経済新聞朝刊



河合蘭
(出産ジャーナリスト)

「予防医療」の四文字が日経朝刊トップ記事にあるのを見て、うれしくなった。医療費の自己負担増など痛みに焦点を当てた報道が多い中、この記事は人間ドックやフィットネスジムの個人負担軽減、予防医療のイノベーションに挑戦する企業の支援など建設的なニュースを中心に伝えていた。日本は症状がない時は公的補助を受けにくく、病氣と診断されれば手厚い。重症化してからの受診を奨励し、個人にも財政にも負担の大きい道へと誘導しているようなものだ。私の守備範囲である出産の世界にも、生活習慣病の予防につながる知見は意外

と多く、この機に注目度が高まってほしいと思っている。例えば胎児期、新生児期に身体が学んだ代謝は生涯変わらず、生活習慣病の発症率を左右するという「DOHAD学説(胎児期疾病起源説)」というものがある。日本は、先進国では珍しく二五〇〇g未満の低出生体重児が増えていて、約十一人に一人の割合だ。この子どもたちは高血圧、Ⅱ型糖尿病、脳梗塞、脂質代謝異常などにかかる割合が高い。理由は女性のやせ過ぎ、高齢出産などにあると考えられている。

最近、母乳も、生活習慣病と密接な関係にあることが国際的に定説となってきた。私は最近乳がん検診を受けたが、検査前の問診票には「乳がんにかかった親族がいますか」といった質問と並んで「子どもを母乳で育てましたか」という質問が入っていた。国立がん研究センターが作成した『日本人のためのがん予防法』というリーフレットにも、母乳を長期間与えると母親の乳がんリスクが低下するという研究は数多いと明記されている。

NEWS
2

反ロデモの横で 「フリーハグ」をした 日本人

9月12日、現代ビジネス(筆者＝桑原功二)



慎武宏
(ノンフィクションライター)

史上最悪と言われる日韓関係のせい、か、韓国の話題に事欠かない今日この頃だ。朝日新聞の「過熱する韓国報道、底流に何が」(九月六日付)という記事によると、ワイドショーで日韓対立を扱う時間帯は六月までは一週間で二時間程度だったが、八月下旬になると約十時間に増えたという。巨大パネルを使って深掘りする日本の情報番組に、ビジネスのために日本にやってきた韓国の友人も「ここは韓国か。いや、韓国のテレビでもここまで毎日特集しない」と閉口していたほどだ。

そんな中で目に飛び込んできたのが九

母乳は感染症も予防し、世界保健機関(WHO)やユニセフは四十年間も推進キャンペーンを続けてきた。ただ先進国では「あれは感染症による乳児死亡が多い発展途上国の話」と受け流されてきたきらいがある。しかし、それが生活習慣病を減らし、医療費の膨張にも効くとなれば話は別だ。「ランセット」という高名な医学雑誌が過去三十年間の研究報告から乳児栄養の生涯にわたる影響を総括し、母乳は、飲ませた量が多いほど、子どもの将来の糖尿病、肥満、母親の乳がん、Ⅱ型糖尿病などのリスクを下げると結論づけたことは大きなインパクトがあった。

米国では、すでに政策が走り出している。黒人層の母親で母乳率が低い米国では、国の機関である疾病管理予防センター(CDC)が、母乳を飲んでる子どもの率、職場に搾乳室を作るなど授乳しながら働く母親を支援する雇用主の割合などについて数値目標を掲げた。数値の中間発表を見ると成果は上がっている、支援雇用主の割合はすでに四九%と目標

値三八%を上回っている。しかし日本で、今、厚労省が同じようなことをやろうとしたら、一瞬でSNSが炎上して、たたきつぶされるだろう。今の日本では、待機児童の多い地域では、零歳児の時期に入園を申請しないと、なかなか保育園に入れない。冷凍母乳対応の保育園はわずかで入園前に断乳を指示されることが多いから、ほとんどの母親はよく出ている母乳を止めてから子どもを入園させている。

分娩取り扱い施設が減少し、残ったところは大混雑で産後ケアに手が回らないこと、母乳分泌量が減りやすい高齢出産が増えていることも母乳育児がうまくいかない母親を増やしている。母乳をあげたいのにあげられないことに悩み、育児の自信を失う人もいるので本人たちへの対応は慎重にならなければならない。ただ、国には、待機児童や産科医不足、出産をためらうような就労環境は生活習慣病も増やしていくのだということをしっかり認識してほしい。

メディアでも、母乳は取り扱いにくいテーマとなっています。

公衆衛生マターとしては、そこそこ書けました。

ライフ ▶ ニッポンの出産は安心・安全なのか

ピジョンも関わる「母乳バンク」の知られざる姿

ニーズ高く国際的に進んでいるが日本は牛歩

次ページ »

河合 蘭：出産ジャーナリスト 著者フォロー

2019/11/19 12:40

シェア 480

ツイート

一覧

B! 0

印刷

A A



「ドナーミルクがあるおかげで、自分の母乳が出るのをゆったり待てる」と話してくれたお母さん（写真：昭和大学旗の台病院NICUで筆者撮影）

神奈川県在住のOさんは、3カ月前に早産をして赤ちゃんがNICU（新生児集中治療室）に入院した。わが子が飲みきれないほど母乳がよく出たので、それを冷凍母乳にして「母乳バンク」へ寄付することにした。

母乳を飲めるかどうかが生命予後にかかわる早産児についても書けます。しかし、一般的な育児の知識として母乳語るときは、非常に慎重にならざるを得ないのが現状です。

TOYOKEIZAI Analysis 東洋経済解説部

アクセスランキング 1時間 24時間 週間 月間 シェア

1位 エアドロップで卑猥画像「痴漢」の驚くべき実態
「週刊女性PRIME」編集部

2位 反抗期の子を絶望させる「親たちの最悪な対応」
親野 智可等

3位 経験ゼロの男性がたった1年で「離婚」したワケ
鎌田 れい

4位 糖尿病なのに「糖質制限に挑戦した男」の大失敗
森 豊/松生 恒夫

5位 トヨタとホンダ、電動化の新戦略で決定的な違い
木皮 透庸

※過去1週間以内の記事が対象

» 11~30位はこちら

トレンドウォッチ

AD

週刊東洋経済の最新号

人材戦略から儲けのからくり
まで コンサル全解明



年5000人を採用！過熱する人材争奪戦
人材の争奪戦が過熱し、年収水準もうなぎ登りに。デジタル化を背景にコンサルティング業界は空前の活況を呈して

母乳はあげなくていいと言うのは、本当の優しさ？



Special Visionカンバセーションのルール

～誰でも安心して参加できる場であるために～

- Special Visionは誰でも参加できる場で、様々な考え方の方が参加されています。
- どのような職種・お立場の方も対等に話せる場でありたいと思います。
- 自分とは異なる考えを述べた方に対する、否定的な言動はお控えください。
- 他の発言者を尊重した態度で異なる意見を述べていただくことはもちろん歓迎です。

- 私たちは参加者の方がゆっくりお話し頂けるように努力いたします。しかし同時に皆さまも、限られた時間内で多くの方がお話しできるようにご協力ください。
- 以上に反する場合は、私たちからお声をかけさせていただくことがありますのでご了承ください。

ご一緒に、尊重し合い、学び合う時間を作っていきたいと思います。

■ 岡本千加さん (ははこ助産院)

1990年助産師免許所得 大阪市公立病院産婦人科で約10年間勤務。ふたりの出産、育児を経験し、より地域に密着した周産期支援を志し、地元の産婦人科や行政に従事。

2008年出張開業の後、母乳育児サポートだけでなく、妊娠中～子育て中に、「ここに来ればなんとかなる」という場所を作りたいという思いから、2014年7月 ははこ助産院設立。



■ 須田桃子さん

(科学ジャーナリスト／News Picks 副編集長)

須田桃子千葉県木更津市出身。2001年毎日新聞社入社。水戸支局を経て2006～2020年、科学環境部に所属し、科学、医療、科学技術行政などを取材。2008年に娘を出産した。『捏造の科学者 STAP細胞事件』（2014年）で大宅壮一ノンフィクション賞、科学ジャーナリスト大賞。

2冊目の単著に、約1年間の米国取材を基に書いた『合成生物学の衝撃』（2018年）。日本の科学の現状と背景を追った科学面の長期連載「幻の科学技術立国」で取材班キャップを務めた。同連載を再構成・加筆した『誰が科学を殺すのか』で2020年に科学ジャーナリスト賞。

2020年4月からウェブメディアのNewsPicksで、サイエンス担当の副編集長として科学関連の取材・編集をしている。



■ 神園七海さん

(母親・もと保育士)

32歳、主婦で元・保育士、幼稚園教諭。2018年5月に長男を出産する際、全前置胎盤が発覚し3ヶ月の管理入院、帝王切開を経験した。帝王切開後軽度のイレウスを発症、長男は肺気胸の為数日間NICUへ入院。母乳育児が軌道に乗らないまま退院し、自分で調べて地域の開業助産師に助けを求め、3ヶ月後、母乳育児に漕ぎ着けた。

昨年2022年9月に長女を出産し、現在は2人の育児に奮闘中。

～神園さんは、管理入院と帝王切開出産のご経験を河合が取材させていただいたお母さんです。

